

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスささえ		
○保護者評価実施期間	2024年11月22日		～ 2024年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 46名	(回答者数) 38名	
○従業者評価実施期間	2024年12月18日		～ 2024年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 11名	(回答者数) 8名	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動のレパートリーが広く様々な活動を提供することができている。	スタッフの得意分野が偏っておらず、アイデアが豊富である。適材適所、スタッフの強みを活かして活動プログラムを構成している。活動会議の場では具体的に案を出し合っていくことで実際の活動をイメージしやすく、実際の療育活動に反映することができている。	常勤の職員だけではなく非常勤職員のアイデアも取り入れ、さらに活動のレパートリーの幅を広げていきたい。新型コロナウイルスの影響で控えていた外出や調理活動を今後は取り入れていく。
2	職員間でのコミュニケーションが円滑であり、立場関係なく意見やアイデアを出すことができる。	常勤だけでなく非常勤の職員からの意見もしっかりと取り入れて運営を行っている。改善点等の声が上がった時にはしっかりと意見を受け止めて、改善している。	どの立場の職員でも発言しやすい環境設定を行ない、より良い療育が出来るよう今後も努めていく。相手の言葉に共感的な態度で傾聴していく。
3	個別面談の時間を十分確保することが出来ている。児童発達支援管理責任者だけではなく支援者も面談に同席する場面も設ける。保護者の方との情報交換の場にすることができている。	1時間から2時間の面談の時間を取ることでしっかりとフィードバックを行い、今後の支援につなげることができている。家庭での困り事などにも助言アドバイスも行うことができている。支援者も同席することで、個別支援計画に沿った支援を意識する機会となっている。	面談の時間だけでは不十分な様子の時には、再度日程調整を行い改めて面談を行う。支援者の同席に機会を増やし、共通認識を持って支援に当たれるような体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	経験年数の差が大きく、支援のスキルに差が出ている場面が見られることもある。	経験年数の差があることで、統一した支援が不十分となっている。スキルだけではなく知識の差もあることで統一した支援の難さが生じている。	研修参加や勉強会を増やし、全体の底上げを行っていく。知識を増やしていけるよう特性や支援技術についての研修を年間計画をたてて取組んでいく。スキルの差は経験を積むことが大切であると感じるので、様々な場面で職員が経験を積む機会を作っていく。
2	地域の他の児童との交流の場を持つことができていない。	事業所内での活動で完結してしまい、交流の場を設けることが難しい。ご利用いただいている時間帯も放課後のため、そのような場に出向く機会も少ない。必要性を感じたことがないため、検討したことがない。	市や相談支援事業所にも相談し、どのような方法があるのかを確認していく。保護者の方へ聞き取りを行い、必要があるのかも含めて検討していく。
3			